

置賜地区 三友堂病院

施設紹介 ～信頼と融和で築こうよい病院～

三友堂病院の歴史は古く、明治19年（1886年）に三友舎を前身とし、明治43年現在の三友堂病院と命名されてから現在まで、137年の歴史を刻んできました。



当院は、令和5年11月1日に新病院としてオープン致しましたが、これまで急性期医療を担っていた三友堂病院と回復期医療を担っていた三友堂リハビリテーションセンターを統合して新「三友堂病院」となりました。新「三友堂病院」は米沢市立病院の敷地内に新「米沢市立病院」と隣接して建設し、さらに民間資本を活用したアメニティーセンター内に両院の療食提供を行う三友堂給食センターを併設、その他レストランやコンビニ、院内保育所、会議室等も両院で共同利用しています。これは今後の人口減少や高齢化社会に鑑み、全国に率先して官民連携による医療再編を実現し、医療の機能分化及び医療連携の充実を図ることで、医療の質の向上を目指したプロジェクトになります。新「三友堂病院」は、回復期リハビリテーション、地域包括ケア、緩和ケア、慢性期人工透析、在宅、予防・健診等の医療を担いながら、地域の方々が安心・信頼できる医療の提供を目指しています。



新病院での検査室の役割を紹介します。検査技師は現在8名で、生理検査、検体検査を行っています。病院1階には生理検査室があり、健診・外来・病棟・透析の生理検査を担っていま



す。



また三友堂グループの「三友堂クリニック」へは月に2回技師を派遣し、心臓超音波検査をはじめとした生理検査を行っています。病院2階にある外来と同じフロアには採血室があり、旧病院の頃から、外来患者の採血は検査技師が行っています。当院は米沢市立病院との医療の機能分化及び医療連携の一貫として、CTやMRIまた検体検査の機能を市立病院に委託することになりました。検体検査の一部の検査は院内(小さな検体処理室)で実施していますが、大部分を米沢市立病院検査科に委託しています。米沢市立病院検査科とはコモンストリートと呼ばれる廊下で繋がっており、セキュリティを介して米沢市立病院の同フロアにある市立病院検査

科へ搬送しています。市立病院検査科で検体検査が行われ、システムを介して三友堂病院の電子カルテに結果報告されています。米沢市立病院検査科とは、新病院稼働までにWGでの話し合いを重ね、お互いに協力しながら運用の構築を図りました。

その他の活動としては、呼吸器チーム・ICT・糖尿病チーム・NST等のチーム活動や委員会活動、自己血糖測定指導など積極的に参画しています。現在は、これらの活動に力を入れ、新しい病院で自分たちの出来ることを模索しているところです。

